

令和 7 年度第 2 回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

1 日 時 令和 7 年 1 0 月 9 日（木） 1 0 時 0 0 分から 1 2 時 0 0 分まで

2 場 所 長崎市役所 5 階 第 1 委員会室

3 出席者 委 員 9 人中 7 人出席

事務局 生涯学習企画課長、同課地域学習係長、職員 1 人

4 議事内容

(1) 諮問に対する答申の構成について

(2) 答申の内容について

5 主な意見

(1) 構成について

ア つながりの希薄化の要因の記載のあと、つながりの強い地域としてあるべき地域の姿が並ぶと、こうするべきだと求められてしまい、それが負担感につながるようなネガティブな印象を受ける。要因を受けて、良い事例として対比させると印象が変わるのではないか

イ 他都市の事例も参考にはなるが、長崎市ですでに取り組まれていることだと思うので、長崎市の地域コミュニティ協議会での多くの取り組みを参考にできるよう、ホームページの 2 次元コードを記載するなど、取り組みを広めて、各地の活動が見える化し、情報に誘導できるようなものにしたい。

ウ 地域のつながりが希薄化しているそもそもの大きな要因は「少子化・高齢化」であるので、要因の中に加えたい。

(2) 内容等について

ア 地域と学校とのコミュニケーション手段が変化し、情報共有がうまくいかなくなっている。先生が異動等で変わると、考え方も変わってしまう。また、行政も異動等で担当者が変わると、それま

で積み重ねた関係の蓄積が途切れ、つながりが弱まってしまう。

イ ふるさとは、その空間と、ともに過ごした時間、そこにいる仲間
でできているという考えもあるが、共有する時間が地域でとても少
なくなっており、空間的にもバーチャルでどこへでも行くことがで
き、その中での仲間との繋がりもできてしまうので、地域での関係
性の希薄化の要因になっていると思う。

ウ 外国の方も増えており、多様化している。外国の方も地域に入れ
ず（馴染めず）に苦勞しているかもしれない。

エ 現状、働く場所、遊ぶ場所など、住んでいる地域にいないことが
増え、各々が様々なコミュニティに属して生活ができる社会となっ
ている。属している空間が広がっている良さもあるが、地域との関
係性が変化し、地域への愛着が感じにくくなっている。

オ いま各地域で取り組まれていることは有効であり、利便性やテク
ノロジーで広がっているからこそ、根幹の部分地域で作り続ける
ことをしないと、見えないところで自分勝手になっていく。どうに
かしたいとの共通の願いや思いを、具現化していくことを大事にし
ないといけない。

カ 行政と地域と企業が三位一体となっていくことがまちづくりの
基本であり、企業のふるさと還元も多くなっていると感じてい
る。企業は、物の提供、場の提供、人の提供ができると思う。企業
の人を講師として招致すれば、企業にとっても宣伝になりプラスに
なると思う。

キ 長崎でも企業が頑張っていて、プロ選手が地域に関わると、出会
った子どもたちの目の色が変わりすごくいいと思う瞬間がある。人
も集まり、つながりが起こる。旧来のやり方から変えて、企業の活
動を後押ししていくことも大事である。

ク 企業が地域へ還元するような取り組みを活性化するために、企業への特典や褒賞、地域貢献や地域とタイアップした企業を賞賛できるような制度化もできたらいいのではないか。地域の行事などに、一度参加すれば楽しいと感じると思うので、参加してもらう取組をしたらいいと思う。

ケ 地域活動では、仕事ではないのだから失敗してもいいという精神で取り組むことができるので、楽しく活動ができると思う。失敗することができない社会になっているが、学校では失敗ができ、その経験をすることは大事である。地域でも失敗をしてもいいので、行事などに積極的に参加してほしい。

コ 社会教育施設の中でも多世代交流の実践など、公民館が核となると思うが、地域が管理運営している公民館と市が管理運営している公民館があり、地域の公民館との住み分けも大事なのではないか。

サ コミュニティナース（地域住民と関係を築き、地域を活性化させるような働きかけをする人）のように、地域内における潤滑油のような人材が必要である。

シ 10年ほど前までは地域ではたくさん行事があり盛り上がっていたのに、運営側が高齢になり、続けられない時代になっている。ただ、子どもたちに話を聞くと、遊ぶ場所や、花火とかいろんなまつりなどを求めている。子ども発信で繋がっていく企画や、くんちなどの伝統行事など、関わる人の思いで若い人も加わってくると思う。

ス 地域のつながりの希薄化の原因のひとつとして、SNSの普及があると思うが、例えば「地域の人材の情報をバーチャルおばあちゃんなどと発信しリアルな祭りに会いに来る」など、SNSを利用してリアルに活かすことができればいいと思う。